

【資料 1-2】総合人間学部 教育研究上の目的と教育の方針

【資料 1-2-①】総合人間学部 教育研究上の目的

(京都大学通則第3条の3の規定による)

総合人間学部は、人間と文明と自然の結び付きに新たな次元を確立するために、人類が直面する様々な問題を人間活動の広範な諸領域を徹底させる形で問い直し、これまでの人文科学、社会科学、自然科学を融合した新しい学問の体系を構築することを、すなわち、新たな「人間の学」の創出を目指す。さらに、このような学問的探求を通じて、科学技術の急速な発展と国際化の進展など著しく変化するこれからの社会に対して、持続的かつ創造的に対処しうる広い視野を持った人材を育成することを目的とする。

教育の方針

【資料 1-2-②】総合人間学部 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

総合人間学部は、人間と文明と自然との新たな結びつきを見出す「人間の学」の創出をめざしています。また、この学問的追究を通して、高い倫理性と幅広い視野から創造的かつ持続的に現代の諸問題と向き合い、多様な人々と協働しながらリーダーシップを発揮する人を育成することを目的としています。これを達成するため、以下の点に到達した者に総合人間学部学士号を授与します。

1. 総合人間学部が提供する学際的な学問の場において、人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけていること。
2. 他者や異文化に対する理解を深めた上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを培っていること。
3. 多様な学問分野を学ぶ中で、自らの知的な核となる特定の分野を選択し、その理解を深めていること。
4. 主たる専門分野とは異なる、もう一つの分野も重点的に学ぶことによって、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
5. 卒業論文・卒業研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組み、一定の成果を上げていること。

【資料 1-2-③】総合人間学部カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

総合人間学部では、新たなる「人間の学」の創出を主軸として、卒業の認定に関する方針に示した目的を達成するために、多様な学問分野を網羅する教員陣によって、教養教育・基礎教育から専門教育までの一体化したカリキュラムを提供します。比較的新しい学問分野と専攻で構成する講座を複数設置し、コースツリーならびに学問分野の履修モデルを提示することにより、カリキュラム体系の構成を具体的に示します。これらを相互に俯瞰し、自身の目的にあわせて知的な核となる主専攻と副専攻を決定し、複数の学問分野を総合しつつ、自律的に自らの学問を構築します。講義や演習等として行われる個々の授業科目の内容および、定期試験・レポート・平常点による評価方法の詳細については、シラバスに記載します。

総合人間学部に所属する学生には、以下の指針に従って自律的に学修することを求めます。

1. 文理にまたがる多様な教養・基礎科目、複数の学問分野による入門科目、複数の外国語科目等を幅広く学び、人文科学・社会科学・自然科学に対する幅広い知識と理解力を修得し、豊かな人間性と高い倫理性を育む。
2. ゼミ・演習等の少人数科目を履修し、教養・基礎から専門の領域にわたる知識と能力を濃密な議論の中で培うとともに、他者に自らの見解を表現するためのプレゼンテーション能力および対話能力を身につける。
3. 学年の進行とともに、自らの学問的関心に応じて一つの講座を主専攻として選択して系統的に学び、自らの知的な核となる専門性を修得する。
4. 主専攻とは異なる学問分野を副専攻として系統的に学び、自らの専門分野に捉われない柔軟で重層的な思考力を養う。
5. 主専攻の分野において指導教員を選び、そのもとで卒業論文・卒業研究に取り組む。学修成果は複数の教員により審査される。こうした研究過程を通して、専門性を深めるとともに、直面する諸問題の解決に挑戦する創造的姿勢と持続力を育む

【資料 1-2-④】総合人間学部 アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

総合人間学部は、たえまなく変化する現代社会における人間と文明と自然の新たな結びつきを見出すために、人文科学、社会科学、自然科学を横断する「人間の学」の創出をめざしています。この挑戦に積極的に加わりようとする志をもつ人、高い倫理性と豊かな人間性を持ちつつ、国際的視野から人類が直面する様々な課題に向きあおうとする進取の精神をもつ人、持続的で創造的な取り組みを支える教養を身につけたいと考える人を本学部は求めます。

総合人間学部が入学を希望する人に求めるものは、高等学校の教育課程の教科・科目を広く修得し、自らが学ぼうとする分野の基礎となる知識を身に付けていることに加えて、その内容を活用する主体的な思考力・判断力・表現力、そして他者と協働しながら学ぶ態度です。

総合人間学部の入学者選抜は、京都大学の一般選抜において、文系試験と理系試験の2つに分けて実施し、多様な基礎的学力を測ります。また本学部独自の特色入試では、高等学校における学びの成果、基礎的学力とともに、文系と理系の総合的な思考力・表現力を評価します。これらの入試においては、総合的な学力の評価を行うために大学入学共通テストの成績を取り入れ、合否判定を行っています。

【資料 1-2-⑤】総合人間学部 カリキュラム体系

『総合人間学部便覧』およびホームページにて掲載 (<https://www.h.kyoto-u.ac.jp/about/ug/curriculum/>)

学系 (2023 年度以前に入学した場合)

<コースツリー>

- ・人間科学系 コースツリー
- ・認知情報学系 コースツリー
- ・国際文明学系 コースツリー
- ・文化環境学系 コースツリー
- ・自然科学系 コースツリー

<履修モデル>

- ・人間科学系 履修モデル
- ・認知情報学系 履修モデル
- ・国際文明学系 履修モデル
- ・文化環境学系 履修モデル
- ・自然科学系 履修モデル

講座 (2024 年度以降に入学した場合)

<コースツリー>

- ・コースツリー (全講座共通)

<履修モデル>

- ・数理・情報科学講座 履修モデル
- ・人間・社会・思想講座 履修モデル
- ・芸術文化講座 履修モデル
- ・認知・行動・健康科学講座 履修モデル
- ・言語科学講座 履修モデル
- ・東アジア文明講座 履修モデル
- ・共生世界講座 履修モデル
- ・文化・地域環境講座 履修モデル
- ・物質科学講座 履修モデル
- ・地球・生命環境講座 履修モデル

【資料 1-2- ⑥】総合人間学部 入学から卒業まで

学部案内より転載

入学から卒業まで

入学試験(120名)

一般選抜(前期日程)

第1段階選抜は、大学入学共通テストの成績等により行います。

第2段階選抜は、文系型試験(定員62名)と理系型試験(定員53名)に分けて行います。

特色入試

提出書類、能力測定考査、及び大学入学共通テストの成績を総合して選抜(定員5名)を行います。



専攻の決定

総合人間学部は本学他学部にもみられない、文理にまたがる広い学問分野をカバーしています。一般選抜「文系」または「理系」、特色入試「総合型選抜」という入学試験のどちらかで受験したかにかかわらず、本学部学生はその幅広い分野をカバーする諸講座のどれにでも進むことができます。ただし入学後1年間は、どの講座にも属しません。幅広い学問分野に触れ、自分の専攻したい学問分野をじっくり見極めた上で、2回生進級時に主専攻を決めて、講座に属します。専攻分野をこれほど広い範囲から選べる学部は、本学ではほかにありません。



副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する講座の専門分野以外の特定の学問分野を系統的に履修する制度です。これによって、主専攻以外の分野においても専門的知識と深い素養を身につけることができます。副専攻を履修したことに対しては、学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。



卒業論文・卒業研究と「研究を他者に語る」

4年間の学修の集大成として、指導教員の指導の下、卒業論文あるいは卒業研究の作成がなされ、その発表会がもたれます。またこれとは別に、その研究成果を自分の専門分野とは異なる分野の複数の教員や学生に対して説明することが義務づけられています(「研究を他者に語る」)。専門外の人に自分の専門をわかりやすく語ることが総合人間学部の教育では重視されていますが、この課題はその総まとめといえます。卒業時のこれら諸課題を完成することで、学生は専門分野の研究・理解の力を養うとともに、深い思考力を身につけ、専門外の人々への説明の能力を培います。これらの能力は、卒業後の人生の頼もしい武器になることでしょう。



卒業後の進路

大学院進学

総合人間学部の大学院進学希望者の多くは、直結する「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。

2024年度からの総合人間学部の組織改革により、総合人間学部は10の講座に再編され、それによって人間・環境学研究科の10の講座と対応するようになりました。その結果、学部と大学院でのシームレスな学習・研究が可能になりました。

なお、本学の他の研究科や他大学の大学院に進学することもできます。

就職

総合人間学部の卒業生は、主専攻の履修だけでなく、副専攻の履修や、幅広い分野の学部科目を履修することにより、広い視野と柔軟な思考力を備え、総合的な判断力を身につけているものと、社会から期待されています。また、卒業生は、のびやかな個性と独創性が高く評価され、文系から理系に至る幅広い職種に就職して、その社会的期待に応えています。国家機関、国際機関、地方自治体、民間企業等での活躍の道が、大きく開かれています。